

## \*こころのはんもっく\*



絵本と子ども



その3：絵本の中にある繰り返し

子どもは、繰り返しのある絵本が好きです。「おおきなかぶ」などはその代表作でしょうか。最後の「うんとこしょ、どっこいしょ」では、声を張り上げ身振り手振りをしている笑顔がいっぱい見えてきますね。繰り返しにはリズムやテンポがありますが、それを子どもが楽しむというのはどういうことなのでしょうか。



子どもは、繰り返しを予測してその時を待ちます。それは、本や読み手からの刺激に子どもが自分のテンポを合わせるといことです。他人との協調、コミュニケーションですね。繰り返しのリズムやテンポに合わせてられた時、子どもは心地よさや安心感、充実感、達成感などを味わいます。集団であれば、仲間との理解の共有や共振の体験となり、何にもまして心的満足をもたらすことは間違いありません。

このような体験は人と人との基本的な共感の経験となります。繰り返しは予測できますから、上手く合わせられなくても、失敗したという気持ちより「次は上手くやるぞ。」という意欲につながります。子どもの様子を観察しているとよく分かりますね。

繰り返しのある絵本では、小さな繰り返しを重ねながら全体のストーリーが展開していきます。これを楽しめるのは、物事の理解に欠かせない部分と全体の関係性について捉えられているからです。子どもは絵本を通して楽しみながら、知らず知らずに部分と全体の関係を瞬時に感じ取る練習をし物事の理解力を高めているのです。



子どもはこれらのことを意識しているわけではありませんが、この瞬間を楽しみながら多くの生きる力を身に付けているのだと考えられます。(心理相談員 齋藤祐子)

参考文献：古市久子 2012「絵本がもつリズム性がこどもに与える教育的意味」東邦学誌 Vol.41No.1



# オリーブの実



2013春号

発行 児童家庭支援センター オリーブ

松戸市根木内145

TEL 047-340-1151・1153

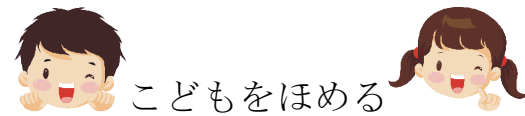
今年の冬の寒さはとても厳しく、寒さをじっと耐え開花時期をまっていた梅が例年になく美しく感じられました。梅の開花後、暖かな天候が続き今度は記録的に早い桜だよりがきかれまさに百花繚乱、別れや出会いが多い春の緊張感を色とりどりの花が心を和ませてくれます。オリーブもスタッフの若干の入れ替わりがございましたが、これからも「人と人、人と社会のより良い関係づくり」に向かって、なお一層努力してまいりますので宜しくお願い申し上げます



先日、東京の体育館で鬼ごっこ協会主催で「スポーツ鬼ごっこ大会」が開かれ20代から60代の男女100人が集まったとの記事を読みました。昔懐かしい鬼ごっこに協会があるとは興味を感じ、早速鬼ごっこ協会のホームページを検索したところ、「スポーツ鬼ごっこ」はもともと子どもの運動不足解消の一助にと、スポーツの要素を取り入れて考案され、その普及のために城西国際大学の羽崎泰男教授らのグループが協会を設立されたそうです。運動が苦手でも、場所がなくても、どの年代でも、ルールがわかりやすいので、幅広い層の人が楽しめるということで、町内会や祭りの会場、または職場の旅行先などでも広まっているそうです。このスポーツ鬼ごっこは、相手陣地の宝を奪った回数で勝敗が決まります。ルールが単純だからこそ、勝つためのチーム戦術戦略を練ることが必要であり、ここでの戦略会議がコミュニケーション力を育てるにも有効だそうです。スポーツとなると例えば野球・サッカーチームのように技術向上をめざし大人の指導者がいるのが常ですが、大人も子どもも混在するチームが皆対等の立場で挑み汗を流すことに「ごっこ」としての醍醐味があると思います。

柳田國男の『分類児童語彙』では、日本各地で行われてきた遊びについての児童語を集め、その言葉(=遊び)を成長に応じた遊びとして分類し、三段階にわけています。第一段階は「手遊び物」(おもちゃ)といった家あそび、第二段階が「軒遊び」そして第三段階には「外遊び」といった群れ遊びという段階を追い、成長に応じて第一から第三へと発展していくものと捉えています。時間の隙間をみつけて家で一人でもできるゲーム遊びは手軽ではありますが「手遊び」の範疇を越えることはないでしょう。外の空気が心地よく感じる季節になりました、家だけに留まらず、その先の軒へ、そして外へと遊びの場を広げ、第三段階である「群れ遊び」の機会を作ってみてはどうでしょうか。

「群れ遊び」と言えばやはり「鬼ごっこ」でしょうか。(センター長 富澤和江)



毎日の子育ての中で子ども達をほめていますか？  
 ほめようほめようと思っていても叱ることの方が多かったりしませんか？  
 大人もそうですがほめられると人はうれしくなりやる気が出てきます。子どもは大人以上にほめられると素直に受け止め行動や態度が変わり成長につながります。よいところを伸ばすことで悪いことを良い方向に持っていくことも可能になります。

◆褒めるポイント◆

- 普段している当たり前のことをほめる  
 子どもができていることを当たり前だと思ってしまうと、感謝したりほめたりすることが少なくなってしまう。例えば、子どもたちが毎日あいさつをすることができたら「あいさつが上手にできたね」「朝ひとりで起きられたね」「今日は残さずにごはんを食べれたね」など具体的に普段している当たり前のことでも子どものできた行動をほめてあげましょう。
- 「心を込めて直接ほめる」。  
 親が感じた「いいな」と思ったことを言葉に出して伝えましょう。言わなくてもわかるとは思わずに言葉に出して伝えてあげること、子どもは恥かしがるかもしれませんがいやな気持ちにはなりません。親から伝えられる言葉から「自分は愛されている」「大切にされている」「認められている」と感じ自己肯定感が高まります。「ありがとう」もほめことばです。感謝の気持ちを伝えるだけでも子どもはほめられた、役に立てたという気持ちになります。例えば小さい子どもが弟や妹が泣いているのを教えてくれたりした時に「ありがとう、助かったわ」と感謝の気持ちを伝える。子ども自身が良かった事が何か気づけるとまたほめられたい認められたいという思いから自ら進んで次の行動を起こします。

- 「具体的な内容でほめる」  
 ただ「良かったよ」「上手だね」「助かったよ」「ありがとう」だけでなく子どもの行動や態度も具体的にほめてあげます。そうすれば子どもは良い行動が何かを学びます。例えば「自分から片付けができてえらかったよ」「大きな声であいさつができて、良かったよ」など。

- 「タイミングを逃さずほめる」  
 子どもが良いことをしたらすぐにほめてあげましょう。タイミングが重要です。子どもにとってほめられてうれしいと感じる時にほめることが大切です。時間をおかないでほめることで子どものこころに残ります。

♪ほめることによって、子どもの行動は少しずつ変わっていきます。そうすると親も自然に子どもの良いところに目が行くようになりほめることが増えていきます。ほめられることで子どもは前向きになりやる気を起こし自立心が芽生え成長へとつながっていきます。



T.S作

☎電話して つながるきずな 広がる支援 ☎

月・水・木・金・日 9:00~18:00

児童虐待・DV・子育て・子育て不安などの悩みを皆様と一緒に考えていくところです  
 ☆相談は、無料です。相談についての秘密は厳守いたします  
 ☆ひとりで悩まず、お気軽にご相談ください  
 ☆相談事業 電話相談・来所相談・訪問相談・心理カウンセリングなど  
 ☆子どもからの相談をお受けします

松戸市根木内145 TEL 047-340-1151-1

